

市長任期二期目の所信表明(概要)

新しい東久留米~やれる・できる! 未来を創る“新しい”挑戦

2月26日~3月26日の会期で行われている8年第1回市議会定例会の2日目、富田竜馬市長が表明した所信表明の概要をお知らせします。所信表明の全文は、市HPでご覧いただけます。
企画調整課 ☎042-470-7702



(この記事は3面まで続きます)



8年第1回市議会定例会2日目で所信表明演説をする富田市長

はじめに 7年12月14日の市長選挙において、多くの市民の皆さまにご支持いただき、引き続き市長の重責を担わせていただくことになりました。
任期一期目は、市民の皆さまと力を合わせ、将来に向けた改革の礎を着実に築き、私の思い描くこのまちの理想像「あんしんして暮らせるまち」に向けて、全力で取り組みました。本市を取り巻く社会環境は大変厳しく、今後も様々な困難に立ち向かわなければなりません。任期二期目におきましても、市民の皆さま、議員各位のご理解、ご協力を切にお願いしながら、市政運営に全力を尽くす所存です。

「あんしんして暮らせるまち」の実現に向けた市政運営の取り組み

東久留米駅からはじまる“新しい”まちづくり

本市の強みである住み心地の良いまちに、新たな付加価値を創出します

これまでの市民サービスを持続的に続けていく、更なるまちの成長を促していくためには、行政をはじめ、このまちが変化していかなければならないという考えに立ち、新たな取り組みとして、地域の魅力とポテンシャルを活かしたにぎわい・集いをもたらすまちづくり、強く、しなやかな強靱性の高いまちづくりを計画的に進めます。

人口減少時代の到来にあたり、新たなまちづくりを表現した「縮充」という造語があります。縮小する中でどのように充実した持続可能なまちへと変貌させるかというこの表現こそが、本市の今後の公共施設のあり方であると共鳴しました。公共施設マネジメントの推進にあたっては「縮充」の視点で進めます。

スマートで市民にやさしい“新しい”市役所へ

デジタル化、DXによる改革を推進し、市民の方々の利便性向上と職員の生産性向上を追求します

近年の社会は、デジタルなしでは成り立たない世の中となっています。一方、生産年齢人口の減少による労働力不足の影響が顕著化してからの対応は手遅れであるため、先を見据えた上で業務効率化、生産性向上に取り組む必要があります。

デジタル化、DXの取り組みは、市民の方々の利便性を高め、市民の方々にやさしいものであることが大切です。職員の負担軽減、生産性向上を図るとともに、リアル対応を強化し、市民の方々にお手間を取らせない市役所づくり、真に「人にやさしいデジタル化」を実現します。また、行政サービスの拠点でかつ、災害時の防災拠点ともなる市役所本庁舎については、DXとGXを機軸としたスマート市役所へと大規模改修する検討を前に進めます。

「新しい東久留米」に向けた4つの“新しい”挑戦

“新しい”学校で子どもたちの未来を拓く

市制施行100周年を迎える2070年に向け、このまちを、この地域社会を担う子どもたちを全力で応援します

7年10月に開催された児童参加型生徒会サミットでは、幅広い年齢の子どもたちが、自由に、活発に意見を交換し、発表も素晴らしいものでした。市制施行100周年を迎える際の地域社会の担い手は、自由で柔軟な考えを持った、可能性あふれるこのまちの子どもたちです。

私が推し進める「子どもたちへの直接的な支援」としての学校施設の更新にあたっては、学び舎としての環境整備はもちろんのこと、地域との連携という社会教育の視点での環境整備も必要です。

また、不登校対策の一環として、誰一人取り残さない教育環境の整備も大切です。

公園行政では、子どもたちをはじめ、市民の方々の意見を聞きながら、多世代が集い、にぎわいあふれる、魅力的な憩いの場づくりを進めます。

環境・経済の好循環“新しい”視点で持続可能なまち

環境、社会、経済の好循環による持続可能なまちをめざします

SDGsの17のゴールは、環境、社会、経済の3側面からとらえることができ、それぞれの側面がバランスを取り目標を達成するという考え方が示されております。

環境と経済は相反するものと捉えられがちですが、分野横断的な視点での取り組みは、各行政課題の同時解決をもたらすのみならず、更なる好循環を生み出すことができるものと考えています。

私が非常に魅力のある施設であると主張してきた「道の駅」の整備にあたっては例外ではありません。集客効果が期待できる「道の駅」を単にその目的だけで整備するのではなく、環境・社会・経済分野の複数の行政課題を解決し、好循環を創出する視点で、施設整備の検討を前に進めます。

4つの “新しい” 挑戦の具体的施策

①東久留米駅からはじまる“新しい”まちづくり

●東久留米駅西口昇降施設及び駅西口広場のリニューアル工事

東久留米駅西口昇降施設及び駅西口広場は、地域活性の拠点としてリニューアルすべく、着実に事業を進めます。



●都市計画マスタープランに沿ったまちづくり

強くしなやか、にぎわいをもたらす新しいまちづくりが進められるよう改定作業に着手し、まちの防災力向上をめざすとともに、地域の特色やポテンシャルを活かした面的整備として、まちづくりを進めます。

●都市基盤の整備

都市計画道路をはじめとした都市基盤の整備は、計画的かつ着実に取り組むべきと考えます。

●公民連携手法の導入した包括管理業務

公共施設の効果的・効率的な維持管理が期待できる公民連携手法の導入をめざし、指定管理者導入施設等を除く建築系公共施設を対象に検討を進めてきた包括管理業務について、9年度からの開始に向けて準備を進めます。

●「縮充」の視点からの公共施設のスリム化

喫緊の課題である既存公共施設の老朽化については、「縮充」の視点からの公共施設のスリム化に向けたビジョンの素案を8年度中に取りまとめます。

公共施設のスリム化に向けたビジョンに沿って、地域の公共施設機能を市内小・中学校に複合化、集約化し、学校を中心とした新たな地域のにぎわいも期待できる、地域の拠点となる学校施設へと更新します。



②スマートで市民にやさしい“新しい”市役所へ

●生産性向上のためのデジタル化

スマートで市民に優しい新しい市役所に改革すべく、引き続き積極的にデジタル化を推進し、市民サービスの質、利便性の向上はもとより、生成AIの活用による職員の生産性向上を図り、行財政改革にもつなげます。

●フロントヤード改革

「行かない・書かない・待たない」窓口実現に向けた業務の横展開にあたっては「待たない」にも着目し、本庁舎へのキオスク端末の設置のほか、窓口の予約制の導入により、総合窓口化への第一歩を踏み出すとともに、連絡所機能のあり方については、8年度の早い段階で報告書を取りまとめます。



●近未来型市役所

市役所本庁舎の大規模改修を機とした近未来型市役所への変貌に向けて、改修基本計画を取りまとめ、本庁舎改修の基本設計や旧下里小学校改修の実施設設計の要件を整理し、8年度中に必要な対応を図ります。

●健康づくり事業へのデータの有効活用

健康寿命の延伸に向けて、保険加入者の医療、健康データを有効活用した健康づくり事業に取り組み、加入者の健康増進と財政運営の両面の課題解決をめざします。

●行財政改革の推進

限られた財源、限られた人材を以て「あんしんして暮らせるまち」を実現するために、今後も不断の行財政改革を推進します。

③“新しい”学校で子どもたちの未来を拓く

教育委員会と連携して進める取り組み

●小・中学校の施設更新

教育委員会では、小・中学校の施設更新について個別施設計画の作成を進め、時代の変化に即した整備をめざすとのことです。教育環境の充実に向けて教育委員会と連携し、その実現に努めます。

●水泳外部指導委託

教育委員会では、全天候型の外部プール施設を活用した水泳外部指導委託について、1ないし2校で導入することが望ましいとのことです。然るべき時期に試行的に導入します。

●「制服(標準服)リニューアル」へのこどもの声

子どもたちから直接伺った「制服(標準服)をリニューアルしたい」との声を教育委員会に伝え、検討をお願いします。また、校内の安全面の強化やICT環境の整備等についても、適宜実施します。

●特別支援教育の充実

教育委員会では、誰一人取り残さない教育環境の整備について、特別支援教育の充実に向けて取り組んでいるとのことです。そのため、新たに第七小学校に情緒固定特別支援学級を開設します。

●学習適応教室とチャレンジクラスの継続

不登校対策として実施している学習適応教室については、現体制により引き続き運営し、「チャレンジクラス」については、当面は下里中学校での運営を継続します。

●ちゅうおう保育園の公私連携型保育所への移行

現在、11年度からのちゅうおう保育園の公私連携型保育所への移行に向けて準備を進めており、8年度は事業者選定を行います。また、公設民営保育園の公私連携型保育所への移行についても、9年4月の入所申請のご案内時にお示しできるよう、検討を進めます。

●地域子育て相談機関の開設

地域子育て相談機関について、8年度に2か所を開設するとともに、10年度に2か所の開設をめざします。



●子ども誰でも通園制度の拡充

子ども誰でも通園制度については、7年度より多様な他者との関わりの創出事業を実施していますが、乳児等通園支援事業も実施します。

●(仮称)東久留米市子ども計画の策定

子ども施策全体を統一的に推進する総合的な計画として「(仮称)東久留米市子ども計画」を8年度末までに取りまとめられるよう検討を進めており、子ども、若者のご意見やヤングケアラー等の実態把握に努めています。

●複数の課題解決に向けた北部地域の基幹公園整備

公園行政の推進では、北部地域の基幹公園の整備と合わせ、子育て支援機能やシティプロモーション、誘客促進等を目的とした株式会社手塚プロダクションとのコラボレーション機能等複合的な機能を有する園内施設の整備に向けて、内部整理を行いました。北部地域の地域課題・行政課題を同時解決する視点、地方創生の推進や新たな付加価値を創出する視点をもって、検討を進めます。



●魅力的な公園づくり

市内の都市公園は多面的な機能を最大限発揮できるよう、「東久留米市都市公園ストックマネジメントあり方検討報告書」に沿って、様々な観点から検討を進めます。

ボール遊びのできる公園は、8年度も第九小学校区の「すみれ公園」内に防球ネットなどボール遊びに関する施設を整備するとともに、子供の広場の遊具等整備は、不動橋広場、やなぎくぼ広場で実施します。

●都立六仙公園の段階的整備

都立六仙公園につきましては、今後も計画的、段階的に整備が進められるとのことです。引き続き、魅力向上、にぎわいづくりに向け、地元自治体としての声を東京都に伝え、協議、調整を図ります。

④環境・経済の好循環“新しい”視点で持続可能なまち

●「道の駅」の設置に向けて

庁内でとりまとめた調査・研究の結果をもとに、好循環による持続可能な視点での「道の駅」の設置に向けて、検討をさらに進めます。



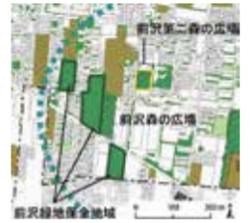
●2050年ゼロカーボン社会の実現

「東久留米市第三次環境基本計画」に内包させた「地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」について、広くご理解いただくとともに、市民・事業者・行政が一体となり2050年ゼロカーボン社会の実現をめざします。



●前沢都市計画緑地の整備

前沢都市計画緑地については、自然の大切さに触れ合うことができるような整備を進めます。



●ごみ発電の余剰電力の地産地消に向けた取り組み

試行実施している柳泉園組合のごみ発電の余剰電力の市への供給は、まちの強靱化に資するために、地域で創られたエネルギーを地域で消費する地産地消事業として取り組めるよう、柳泉園組合および構成市に働きかけます。

●事業承継、若者や女性の働き方、創業支援について

民間事業者と連携した事業承継支援、若者や女性の働き方支援、スタートアップ支援等について、特に金融機関に働きかけを行います。

”新しい”挑戦に向けて

これら4つの挑戦が導く「新しい東久留米」への道のりは、困難な課題が山積し、決して平坦なものではありませんが、「至誠通天」の信念を胸に、自ら先頭に立ち、「やれる・できる」のプラス思考で果敢に挑みます。

誰もが安心、支え合いのまち

「新しい東久留米」を創る4つの挑戦に加えて、私がめざす「あんしんして暮らせるまち」に向けての「誰もが安心、支え合いのまち」における具体的な取り組みについてお知らせします。

物価高騰の影響を受けた方々への支援

長期化する物価高騰の影響を受けた生活者や事業者への支援を行うため、効果的・効率的な事業を、1日も早く市民の皆さまのお手元に届けられるよう準備を進めます。国や東京都の交付金等の活用による効果的な支援策を庁内で検討し、準備が整い次第、速やかに提案します。



にぎわいあふれるまちに向けて

地域産業推進協議会と連携を図りながら、にぎわいあふれるまちに向けた取り組みを進めるとともに、国や東京都の補助制度を活用した商工業の振興策を講じます。近隣市や商工会、公共交通事業者等と連携し、西武池袋線沿線のにぎわいや関係人口の創出に取り組めます。



都市農業の推進

都市農業施策に関しては、国や東京都の物価高騰対策等を活用した支援策を引き続き検討するとともに、8年度は「中核的・中心的農業者支援事業」を実施し、農業者支援、都市農業振興に向けた取り組みを進めます。



地域防災力の向上

地域防災力を高めるため、万が一の災害時における共助の輪を広げていくとともに、「在宅避難」の周知・意識醸成や、市内の指定避難所や医療救護所等の更なる充実に向けても順次取り組みます。

雨水排水機能の向上

道路の雨水排水機能の向上に向けて、道路排水施設の整備や公共下水道事業における雨水管渠整備に引き続き取り組みます。

地域住民の方々への見守り活動

こどもをはじめとする地域住民の方々への見守り活動の一環として、東京都の補助を活用し、防犯カメラの設置場所を選定し、決まり次第、必要となる費用を8年度補正予算に提案します。



所沢街道歩道整備事業

南町四丁目から八幡町二丁目区間の所沢街道歩道整備事業については、東京都と連携し、取り組みを進めます。また、南沢通り(市道207号線)は、歩道整備に向けた取り組みを着実に進めます。

健康づくり事業による健康増進と地域のつながり強化

デジタルの活用や「女性の健康」にも着目し、さまざまな健康づくり事業により、市民の皆さまの健康増進のみならず、地域のつながりを強めるべく取り組みます。

支え合いの仕組みづくり

市社会福祉協議会が行っている地域福祉コーディネーター配置事業をはじめとした支え合いの仕組みづくりを行う小地域福祉活動を推進します。

高齢者・障害者の活躍支援

8年度中に基幹相談支援センターの体制を整備し、地域生活支援拠点の整備に向けても検討を重ねます。熱中症予防に向けた普及啓発や、認知症への理解の促進等、判断能力の十分でない高齢者への支援にも努めます。

地域包括支援センターの充実

今後の地域包括支援センターのあり方については、4圏域4包括体制で運営するとともに、質の確保、機能・体制の充実化に努めます。

市政参加に向けた市民の皆さまへの取り組み

こどもたちをはじめ、これまであまり市政にご意見をいただけなかった方々が一人でも多く市政に参加できるよう、タウンミーティングや座談会、市民参加プラットフォーム「くるりっど」の活用等、取り組みを強めていきます。



持続可能な行財政運営

8年度の上半期を目途として策定検討を進めている「東久留米市財政健全経営計画」に替わる新たな計画は、これからの4年間で重点的に取り組む市政運営のビジョンと行財政改革の方針、具体的なプランを示し、この計画のもとで、持続できる健全な財政運営、新しい視点でのまちづくりに向けて事業を前に進めます。

公民連携の推進

現行の「東久留米市デジタル田園都市国家構想総合戦略」については、国の動向も注視しながら今後のあり方を整理するとともに、企業版ふるさと納税の確保等にも努めます。

市職員の人材育成

7年度末までに「東久留米市職員人材育成基本方針」の見直しを行い、これまで以上に職員一人ひとりが地域のために貢献できるよう、人材の育成に努めるとともに、誰もが安心して働くことができる職場環境の実現に向けて今後も取り組みます。

むすびに

市政運営においては、日々感じる小さな違和感や気づき、市民の皆さまの声、社会の変化等に目を向け、何事も前例踏襲で対するのではなく、前向き、積極的な行動に移す。それら挑戦の積み重ねが、物事を前に進め、このまちの未来を確実に切り拓きます。

その信念は、誠を尽くし、真心を込めて挑み続ければ、必ずや道は拓ける、「至誠通天」です。私はこの思いを胸に、今後も市民の皆さまや議員各位、そして職員とともに、「新しい東久留米」を創るべく、また新たな一年目との気持ちをもって市政運営に全力で取り組みます。